

令和3年度 第100回 全国高等学校サッカー選手権大会 総評

報告者：高体連技術部員 細田学園高校 上田健爾

令和3年度第100回全国高等学校サッカー選手権大会が12月28日から1月10日の期間に開催された。決勝戦は熊本県代表の大津高校と青森県代表の青森山田高校となり、高校サッカー界最高峰リーグであるプレミアリーグ所属チーム同士の決戦となった。試合前は拮抗が予想されたカードだったが、前半から青森山田高校が優勢に試合を展開し、終わってみれば青森山田が非シュート0本に抑え4-0で勝利した。2年連続決勝で苦杯を嘗めた青森山田高校が3大会ぶり3度目の優勝を果たし今大会の幕を下ろした。3位は高川学園高校（山口県）と関東第一高校（東京都）となった。

本県代表の西武台高校はNACK5スタジアムで行われた一回戦で、三重県代表三重高校と対戦した。終始攻勢を続けるも、前半にカウンターで1点を失い、ゴール前を固めた相手の守備を最後までこじ開けることができず、0-1で敗れ、悔しい結果に終わった。

ここでは、今大会を振り返り（1）今大会全般の特徴（2）優勝校の分析（3）本県代表チームの分析について言及したい。

（1）大会全般の特徴

今大会の特徴として①得点数の増加、②セットプレー得点率の減少、③大差の試合の増加の3点に注目したい。過去5年の総得点数は130点台に対して、今大会の総得点数は151点（準決勝1試合減の中）と増加した。一方で、セットプレーでの得点率は99回大会で全体の約5割を占めていたが、100回大会では3割程度となっている。特に、ロングスローからの得点は減少した。また、プレミアリーグ所属校対都道府県リーグ所属校、プリンスリーグ所属校対都道府県所属校のように下位リーグ所属の相手への得点数が99回大会では59点に対して、100回大会では75点と増え、大差での試合が増えた。

この要因として上位進出チームは、相手が守備時に自陣でオーガナイズを組み得点を許さないようにするゲーム展開をリーグ戦において経験しており、それに対策を講じて、クロス攻撃に偏れず、中央突破、ミドルシュート、セットプレーと多彩に攻撃を組み合わせ得点できるようにトレーニングされていた。実際に青森山田高校や静岡学園高校、大津高校、前橋育英高校は攻撃のクオリティが高くベスト8以上に入った。

セットプレーの守備に関しても重きを置いているチームが多く、事前の準備がなされていた。特にロングスローに関しては、ゾーンディフェンスで構えて、スペースを空けないようにし、セカンドボールに対応できるように対策を取っていた。

また、今大会は毎試合1日空きで行われたことはコンディション面や戦術面において良い影響があったと考えられる。回復期間があることでコンディションが整い、パフォーマンスを継続できた。また、次戦の相手への対策ができ、メンバーをプランして活用できた。これはチームとしての連携を向上させ、得点数アップにつながった要因の1つと考えられる。

（２）優勝校分析

優勝した青森山田高校は、初戦となった２回戦大社高校（島根県）６－０、３回戦阪南大高校（大阪府）３－１、準々決勝東山高校（京都府）２－１、準決勝高川学園高校 ６－０、決勝大津高校 ４－０ と 21 得点 2 失点と圧倒的な強さを魅せつけた。大会期間中の基本的なオーガナイズは 1－4－2－3－1 で、相手陣内でのプレー時間を長くすること、攻守にわたって主導権を握ること、そしてセットプレーの緻密さと、強さをゲームモデルとしていた。

ボール保持時は DF もしくは GK からのフィードが前線へ配給され、シンプルに早く前進し、相手陣内に侵入する。その際に、両 SB が高い位置を取り、攻撃の厚みを増やすことで、ボールを失っても素早くプレスをかけることを可能にし、相手コートでのプレー時間を長くするコンセプトを達成している。アタッキングサードでは、他チームとは異なる強度とクオリティをみせた。それを可能にしているのは紛れもなく、【ゴールへの執着心】であるが、戦術的にも徹底されていた。先にも述べたように両 SB の積極的な攻撃参加に加え、ボランチのアタッキングサードへの侵入が目立った。特に MF⑩松木はチャンスと見るや、ペナルティエリア内まで侵入し、多くのゴールを演出した。展開することが主な仕事になっていた他チームのボランチと比べ明らかに違う点だった。さらに、サイドからアタッキングする際は、必ず逆サイドの MF がゴール前に入ってくることも徹底されており多くの得点を生み出す要因となっていた。

非ボール保持時には、それぞれのエリアで守備コンセプトが徹底されていた。アタッキングサードでは連続したプレスで相手に考える時間とスペースを与えず、積極的にボールを奪いに行き、ミドルサードでは 4－4－2 のコンパクトなオーガナイズを形成し、引き込んでボール奪う。自陣ではゴールを隠しながら体を張ったタイトな粘り強い守備を遂行し相手にシュートを打たせない。これらのことが【徹底】されていることが青森山田高校の強さとなっている。

（３）本県代表西武台高校について

西武台高校は１回戦三重県代表三重高校と対戦し、０－１で惜敗した。1－4－2－3－1 の西武台高校は開始から攻勢を続けていたが、９分にカウンターからクロスボールをヘディングで合わせられ先制点を許してしまう。その後は自陣に 4－4－2 のオーガナイズを組み守備を固める三重高校に対して西武台高校はクロスからの攻撃とミドルシュートでチャンスメイクを試みる。左 SB③安木のクロスボールの質は高く、多くのチャンスを作り出した。後半には CB④長谷川のダイアゴナルへのフィードから MF⑦和田が抜け出し、GK と 1 対 1 になるがこれも相手 GK の好セーブに阻まれる。終了間際にはロングボールをゴール前に蹴り相手守備をこじ開けようとするが、最後までゴールを割ることができなかった。守備を固める相手への対策は、西武台高校だけでなく、今後埼玉県代表チームが上位に上がるために必要な要素になってくるだろう。